

EXPO 2005

EXPO NEWS

だより

第3号

1999年(平成11年)3月10日号

Vo1.
3

夢のある博覧会実現にむけての会場基本計画案

博覧会協会では、今までに発表した会場基本計画の検討状況に対する数多くの意見を踏まえつつ、一月二十二日に新しい切り口の検討状況を公表しました。今回は、森林体感地区や供給処理の流れのほか、会場内における来場者の移動の考え方などについて紹介します。

引き続き、各方面の皆さまより広くご意見をお伺いしたいと考えています。

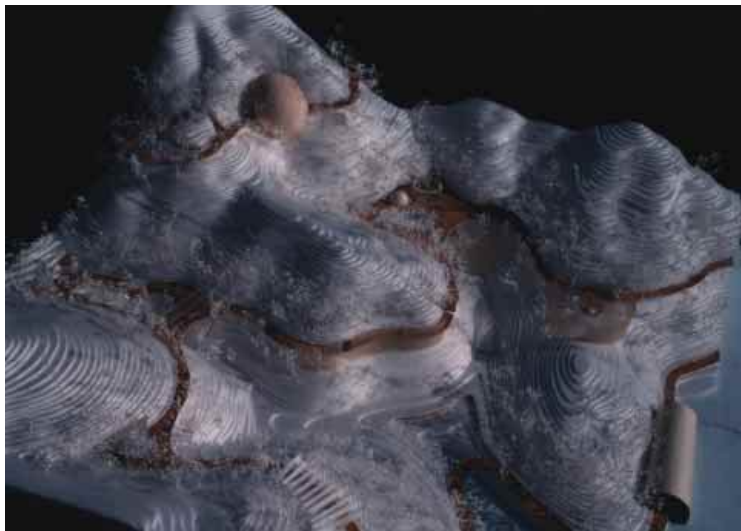
会場基本計画の考え方

博覧会会場の森は、人の関与のもとで維持されてきた、いわば人と自然の接点として、さまざまな変遷を経て成立してきました。この特徴を踏まえ、循環型社会の実現による持続発展型の社会への展望を示すとともに、高齢化社会の到来を踏まえたすべての人に優しい会場の実現を目指しています。

その考え方として、新しいまちづくりの予定地である主要施設地区には、豊かな自然環境の中で人々が活動することのできる、博覧会の施設を配置します。

主要施設地区をつつみ込む森には、人と自然が相互に交流できる施設を配置します。

森のさらに奥は、自然の変遷を人が静かに見守ることのできる区域とします。これらの配置により、主



▲水平回廊イメージ模型写真：水平回廊網は、森の中に同一の標高で水平に張り巡らされた通路で、来場者を森の中へ導きます。

主要施設地区の考え方

主要施設地区に配置する建築物の検討では、人と自然とを優しくつなぐ、いわゆる「インターフェイス」としてとらえることを考えました。

すなわち、地形をいかして建築物を造るという考え方により、既存の地形と建築によって造り出される地形がひとつに融合し、より豊かな空間を創造します。

また現在ある自然をできるだけ活用し、展示や体験の空間とする屋外型展示空間では、切り離されていた人と自然との密接な関係が

2005年日本国際博覧会

・会場・
愛知県瀬戸市南東部

・開催期間・
2005年3月25日～9月25日

森林体感地区の考え方

保たれた場を創出することを期待するものです。

森林体感地区は、森を体験し、楽しみ、学び、考え、もたらう空間です。森には、二十一世紀に向けた人類共通の課題に取り組むための手がかりがあります。それは、森には二酸化炭素の吸収、生物多様性の維持、洪水や土砂流出の防止、再生可能な資源の生産――など、地球規模から身近な生活に関するものまで、多様なはたらきがあるからです。

今回の博覧会は、「問題提起型の知の博覧会」という考え方のもとに開催されます。そのため、このような森のはたらきを最大限に引き出すための取り組みについて多くの皆さんに考えていただくよう、環境体感プログラムや水平回廊網などソフトとハードの両面にわたり具体的な方策を提案します。

そして、こうした提案を契機として、森に対する新

供給処理施設の考え方

たなはたらきかけが生まれ、人と森との理想的な関係が構築されていくことにより、自然の恵みが一層豊かにもたらされることを期待するものです。

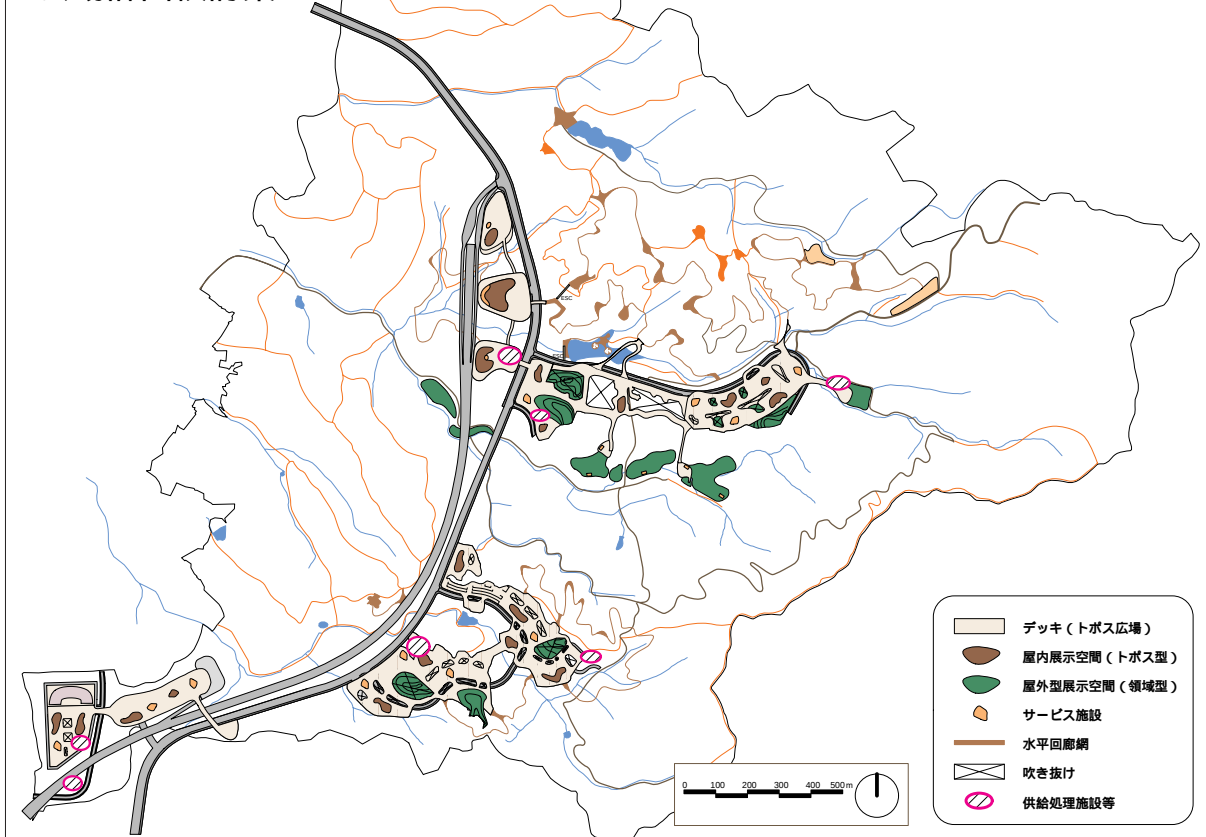
博覧会開催時には会場

を、エコ・コミュニティーを体現する最適エネルギー特別地域として位置づけます。そして、来るべき循環型社会に向け、ゼロエミッションを実感できる博覧会を目指します。

この考え方を基本に次の検討をしています。
* 博覧会開催時での必要量と、博覧会後の新しいまち

における必要量を勘案し、できる限りムダの少ない供給処理計画。
* 二十一世紀のエネルギーシステムのあり方を提案することを目指すとして、新エネルギーや省エネルギー技術を積極的に導入することにも、効率的な運用ができるシステム。

会場計画検討案



観客輸送計画の考え方

観客輸送については、高齢者や障害のある方に配慮し、入場の際や場内の移動が円滑に行える計画を検討しています。

具体的には、長距離の移動には低公害の循環バス、中距離の人数の多い区間では動く歩道、歩行者空間では、電動カートなどのパーソナルコミュニケーション用の空間の確保――などです。

また来場手段は、電車などの鉄道系と乗用車・タクシー・バスなどの道路系の大きく二つに分かれます。

具体的には、愛知環状鉄道には会場付近に新たな駅を設置、周辺の主要駅からシャトルバスを運行――一般車両・団体バスなどの駐車場を会場から二〇分圏内に設置し、そこから会場までは、シャトルバスを運行――などを考えています。

(関連記事3面)

今後は、公共交通機関や道路整備計画との連携を図り、適切な輸送計画、駐車場配置、ITSなどのシステムについて、総合的な検討を進めます。

EXPO キワード 「ITS」

Intelligent Transport Systemsの略
最先端の通信情報技術により、道路交通情報の提供、自動運転、料金の自動収受などを実現する高度道路交通システムのこと。

SYMPOSIUM OF THE 2005 WORLD EXPOSITION, JAPAN

国際シンポジウムを名古屋で開催



「21世紀の循環型社会をめざして」をテーマに、第2回2005年日本国際博覧会国際シンポジウムが二月二十日、世界各国からの出演者をむかえて、名古屋国際会議場で開催されました。第一部では、デンマーク、ドイツ、インドネシアの三カ国の事例報告があり、第二部のパネルディスカッションでは、七人の方々による映像を交えた活発な議論が展開されました。

海外事例報告

第一部では、はじめに複数の企業が資源、エネルギー、廃棄物を交換しながら有効利用する「産業共生」を実践している、デンマーク・カロンボア工業団地の具体的な産業連携の仕組みについての説明が、同工業団地開発委員会理事のエル



エルリンク・ペデルセン氏



ディーター・ヴェルナー氏

リンク・ペデルセン氏からありました。続いて、世界的にも有名な環境先進都市、ドイツ・フライブルク市環境保護局局長のデー

ター・ヴェルナー氏から、行政や市民生活におけるさまざまな環境への取り組みについて、画像を使ったわかりやすい報告がありました。最後に、現在、環境と開



ハディ・アリコドラ氏

発のはさまで葛藤しているインドネシア政府環境庁大臣補佐官のハディ・アリコドラ氏から、森林資源の保護と再生の政策や、「ソーシャル・フォレストリー（社会林業）」の説明がありました。そして、熱帯雨林の伐採や森林火災が社会問題となっているインドネシアが、現在奮闘している姿について紹介されました。

パネルディスカッション

第二部のパネルディスカッションでは、博覧会協会の企画運営委員であり、東京大学大学院教授である武内和彦氏をコーディネーターにむかえ、第一部の事例



タルシオ・デラセンタ氏

報告をもとにして、国や地方自治体の行政、市民、産業界など、さまざまな視点

からの議論が展開されました。

国内からのパネリストとして、ゼロエミッションを提唱した国連大学から、同大学高等研究所所長のタルシオ・デラセンタ氏、中央環境審議会委員でジャーナリストの幸田シャーミン氏、そして博覧会協会の企画運営委員で豊橋技術科学大学教授の藤江幸一氏に加わり、各国のビデオ映像の上映や、前半の事例報告者への質問を挟みながら、議論が進められました。

日本の循環型社会

その中で、日本国内における循環型社会の事例としては、通産省が進めるエコタウン事業の第一号に指定



武内 和彦氏

された北九州市の取り組みが取り上げられ、本格的な循環型都市づくりを進めている様子がビデオでも紹介されました。

社会システムやライフスタイルを変えていく

デラセンタ氏による、「国連大学がゼロエミッションで目指すもの、それは自然と人間と産業に良いものである」という説明から、議論は社会システム、市民

意識、ライフスタイルへと展開されました。

幸田氏はフライブルク市をはじめ、ヨーロッパの環境先進都市では、環境に良い生活が習慣になっている感じがすると述べました。



幸田シャーミン氏

そして、日本では社会的なシステムや教育を含め、市民の意識をどう変えていくか、ライフスタイルをどう変えていくかといった具体的な提案の中で、NGOが果たす役割や子どもだけではなく大人の環境教育などの必要性をあげられました。

グローバルな観点で環境をとらえる

藤江氏は、国際比較の観点からGDPに対するエネルギー使用量が、世界で最も低い日本でも国土面積との対比で比較した場合、たちまち欧米の5倍以上になってしまうと述べました。そのため、今後は定量的数字を踏まえた情報発信をしていく必要性を指摘され、また発展途上国への日本の



藤江 幸一氏

なお、このシンポジウムの模様は、五月十四日のNHK教育テレビ「金曜フォーラム」で放送される予定です。

役割としては、エネルギーの消費量が少ないシステム構築のための人材育成をあげられました。そしてデラセンタ氏も、循環型社会に変えていくためには、先進国の地域ばかりでなく、グローバルな考え方が必要であると強調されました。

2005年国際博覧会は循環型社会の実験場

武内氏は、江戸時代には循環思想があつた日本で現在必要なことは、環境教育などを通して、市民の主体的参加を促し、新たな発想の転換をしていくことだと述べました。そして、二〇〇五年に、愛知で開催される国際博覧会の会場もその実験場と考えられていることを説明し、パネリストに意見を求めました。

藤江氏は「循環型社会、ゼロエミッション社会のさまざまなライフスタイルやシステムのシナリオを博覧会で提示することが課題」と発言し、幸田氏からは「博覧会は、地球における新しいクリーンな環境づくりの提案、そして二十一世紀を生き抜く人類共通の課題に本気で取り組む機会であり、やりがいのある目標が見えてきてうれしい」という意見がありました。

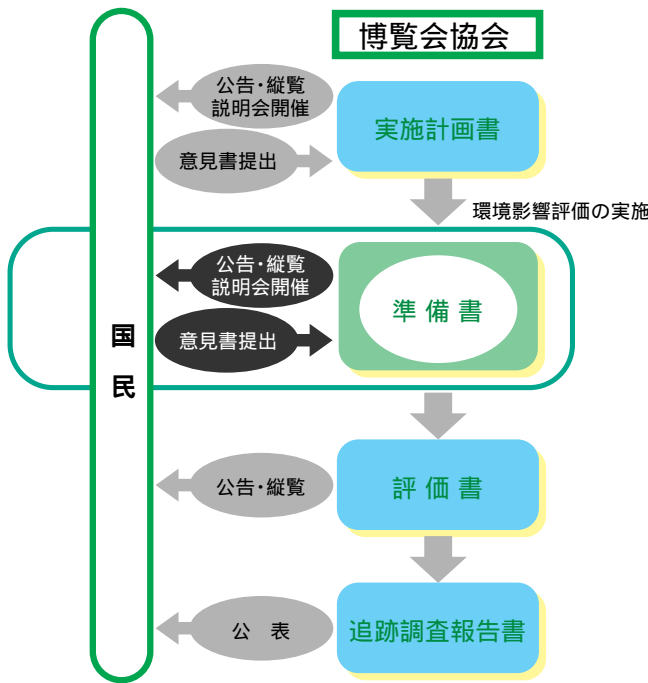
環境影響評価準備書の縦覧始まる

博覧会協会では、三月二十三日まで環境影響評価（アセスメント）準備書の縦覧を行っています。この準備書は、環境アセスメントについて、環境保全の見地からの意見を聴くためにまとめたものです。アセスメントは、通常、事業計画がほぼ固まった段階で実施されることが多いとい



画策定と連動しながら実施していくことが、大きな特徴です。環境への影響を極力、未然に防ぐことができるよう、このアセスメントの結果を会場計画づくりに反映できるとい

● 手続きの概要 ●



ます。準備書の縦覧会場は、博覧会協会名古屋・東京両事務所（午前九時～午後五時三十分）のほか、瀬戸、豊田の両市役所（午前八時三十分～午後五時十五分）です（いずれも土・日曜日、休日を除く）。希望者には準備書を貸し出します。縦覧会場でお申し付けください。なお、この準備書についての意見書は、四月六日まで受け付けています。



二〇〇五年春の日本国際博覧会開催まであと六年となりました。私も、会場へ



山本幸司教授

の観客輸送および会場内の観客移動という分野でお手伝いさせていただいて

博覧会協会では、博覧会の企画・運営について、さまざまな分野の専門家の皆さんに、委員として参加していただいています。このコーナーでは、委員の皆さんの博覧会に対するご意見を紹介します。今回は、企画運営委員で観客輸送プロジェクトチームのリーダーでもある名古屋工業大学の山本幸司教授に登場していただきます。

満足していただける観客輸送システムの構築を目指す

観客輸送および会場内の観客移動という分野で、すでに皆様ご承知のように、今回の博覧会は、従来とは異なり、いわゆる里山を中心とする自然豊かな丘陵地が会場となります。これまで、会場基本計画の策定に向けて、各プロジェクトチームを中心に議論を重ねてきましたが、観客輸送計画についても、先般検討状況を発表いたしました。

動、週変動、日変動がありますが、単純平均いたしますと一日あたり十四万人近くの来場者をお迎えすることになります。いうまでもなく、これらの方々には、東海地方のみならず、全国各地や諸外国から来られますし、中にはリピーターとして何回も博覧会を見に来られる方もいらっしゃるでしょう。

これらの来場者は、どのような交通手段で会場に來られ、さらに会場内を移動されるのでしょうか。私たちは、できるだけ快適に、安全に、確実に、迅速に、経済的に移動していただける観客輸送システムの構築をハード面（施設の整備面）だけでなく、ソフト面（施設の合理的運用面）からも検討しなければなりません。

しかし、来場者はそれぞれ価値観や個人属性が異なります。マイカーを希望される方にも、鉄道を希望される方にも十分に満足していただける観客輸送システムを構築していきたいと思っています。

世界からアイデアを募集!!

1. テーマ — 森の博覧会のアイデア —

本博覧会は、愛知県瀬戸市南東部に位置する里山を会場候補地としており、通常の博覧会会場にはみられない起伏に富んだ自然地形を有する場所での博覧会開催に向け、世界の知恵と技術を結集して挑戦します。

本コンペでは、森の自然と調和し森を舞台とする博覧会として、自然と人間のコミュニケーションを創造するアイデアを募集します。

また応募の方が理解しやすいように、サブテーマを設定します。

■ サブテーマ

- 森の中で行う博覧会でやってみたいこと、見てみたいこと
- 森や自然との関わりを体験できるアイデア
- 森や自然がバビリオンとなるアイデア

2. 応募資格

15歳以下と一般（16歳以上）の2部門とし

2005年日本国際博覧会では、「新しい地球創造：自然の叡智」をテーマに、「問題提起型の博覧会（参加型の博覧会）」、「来るべき時代の実験場」など、21世紀最初の新しい時代にふさわしい国際博覧会を目指しています。博覧会協会では、開かれた「問題提起型の博覧会（参加型の博覧会）」の一環として、広く国内をはじめ世界の方々から多様なアイデアを募集し、博覧会の計画に反映していくため、「国際アイデアコンペ」を実施いたします。

ます。個人またはグループは問いません。（年齢は平成11年4月1日現在）

3. 応募作品仕様

15歳以下の部 A3サイズ1枚
一般の部 A1サイズ1枚

表現方法は文章、絵、イラスト、写真、図面等、どんな方法でも結構ですが、言語は日本語または英語とします。

なお、所定の応募票に、説明文として以下の内容を記載してください。

提案作品のタイトル 作品の主旨 氏名 年齢 所属（会社名、団体名、学校名等も明記） 住所 電話番号

4. 応募規定

応募作品は未発表のオリジナル作品に限ります。また、応募は何点でも結構ですが、応募作品は返却いたしません。

5. 賞

15歳以下の部 最優秀賞 1点 10万円相当の図書券

優秀賞 3点 5万円相当の図書券
佳作 5点 1万円相当の図書券
一般の部
最優秀賞 1点 100万円
優秀賞 3点 30万円
佳作 5点 10万円

参加賞
応募者の中から、抽選で100人の方に記念品を贈呈します。

6. 選考

審査委員会の審査を経て決定します。

7. 著作権

応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募作品の公表に関わる権利は、博覧会協会が保有します。

入賞作品は本博覧会の計画等に採用させていただきます。その場合は応募者と協議させていただきます。

8. 入賞発表

平成11年9月下旬を予定しています。入

賞者には文書で通知するとともに、発表を行います。

博覧会協会のホームページにおいても発表します。

9. 応募方法

締め切り

平成11年7月31日（当日消印有効）

応募先

〒101-8681東京都千代田区神田郵便局私書箱202号HHD

2005年日本国際博覧会国際アイデアコンペ事務局あて

10. その他

詳しい募集要項をご希望の方、お問い合わせの方は国際アイデアコンペ事務局までお願いします。ホームページでも募集要項を掲載しておりますので、ご参照ください。

TEL03-5446-4939 FAX03-5446-8795

<http://www-idea.expo2005.or.jp/>

T O EXPO 2005 C S

EXPO 2005 トピックス



博覧会協会制作の'99年カレンダーが、「第50回全国カレンダー展」で最高栄誉である「内閣総理大臣賞」を受賞し、一月十一日、東京国際フォーラムでその表彰式が行われました。

'99年カレンダーが栄えある「総理大臣賞」に

EXPO2005 市民シンポジウムを開催

一月十九日、愛知芸術文化センターで「人と技術と地球の明日」あしたのために、「いま考えよう」をテーマに開催しました。

コーディネーターに、ジャーナリストの野中ともよさん、パネリストに、トヨタ自動車取締役役元プリウスチーフエンジニアの内山田竹志さん、博覧会協会企画運営委員で名古屋工業大

学教授の若山滋さん、同委員で中部リサイクル運動市民の会代表の萩原喜之さんをお招きしました。

はじめに産業界の立場で内山田さんから、低公害車「プリウス」開発の目的や苦労話など、大学の立場で若山さんから、都市計画や交通の問題など、市民の立場で萩原さんから、責任ある市民活動などについて伺いました。その後、環境や技術の問題を自分自身のこととしてとらえることの大切さや、これからの地球環境と科学技術のあり方などについて、議論されました。

今年のカレンダーでは「自然の叡智」という博覧会のテーマに即し、日本人の自然観を博物図絵に凝縮した江戸の本草書「高木春山ノ本草図説」（愛知県西尾市・岩瀬文庫所蔵）をとりあげました。審査ではそのコンセプト、オリジナリティ、写真の美しさなどが高く評価され、八百八十六点の応募作の中から五年に一度の賞に選ばれました。

（日本印刷産業連合会、日本印刷新聞社主催）

はじめ、中部産業活性化センターの「テクノ・ノバ」構想を紹介。また博覧会に対する市民グループからの数多くの提案をパネル展示しました。中でも日本E.V

「故郷の味」を楽しめるイベントとして、毎年多くの来場者を誇る「ふるさとフェア'99」全国観光と物産展が、今年も一月二十四日から二十四日まで、東京ドームで開催されました。

博覧会協会では、愛知県のブース内にて'99年カレンダーをプレゼントするなど、六年後に迫ったEXPOを大いにPRし

「ふるさとフェア」で20万人に博覧会をPR



はじめ、中部産業活性化センターの「テクノ・ノバ」構想を紹介。また博覧会に対する市民グループからの数多くの提案をパネル展示しました。中でも日本E.V



ました。また、ステージ上では「国際博覧会の会場候補地は？」「開催されるのは西暦何年？」など「博覧会クイズ」を実施し、来場者の大きな反響を呼びました。

（読売新聞社・日本テレビ主催）

クラブ会員が製作した子ども用電動カートは注目を集めました。

その他、全国の小中学生の皆さんが博覧会に対する夢を描いた「EXPO年賀状」の展示も、来場者の関心を集めました。

（2005年日本国際博覧会協会、中部産業活性化センター主催）



氷上綱引でEXPOチームの結束固まる!!

「冬の風物詩」としておなじみの東京・日比谷シテイスケートリンクで、第12回氷上綱引大会が一月十八日から二十一日まで開催されました。

この大会は、昼休みを利用して近隣オフィスに勤務するサラリーマンやOLたちが、冬の風物詩としておなじみの東京・日比谷シテイスケートリンクで、第12回氷上綱引大会が一月十八日から二十一日まで開催されました。

職員総出の応援を背に受けて、グリーンのユニホームに身を包んだ選手は、大粒の汗が光っていました。

（日比谷シテイ主催）

ちの親睦を深める目的で始まったものです。この大会は毎年、いろいろなメディアで取り上げられることから、博覧会PRのため三回目のエントリーをした、我らがEXPO2005チームも新職員の登竜門として六人が出場、大いに健闘しましたが、惜しくも準々決勝で敗退しました。

EXPO2005クイズ

博覧会協会では、2005年日本国際博覧会のテーマである「自然の叡智」をわかりやすく、楽しく、また深く理解してもらうため、昨年12月にソフトプログラムの検討状況として「の森」構想を発表しました。

○に入る数字は何でしょう。

答えのわかった方は、はがきに、クイズの答え 住所 氏名 年齢 電話番号 アンケートの回答——を記入し、次のあて先までお送りください。

[アンケート]

Q1 「EXPO2005だより」の入手先
Q2 「EXPO2005だより」についての感想、要望

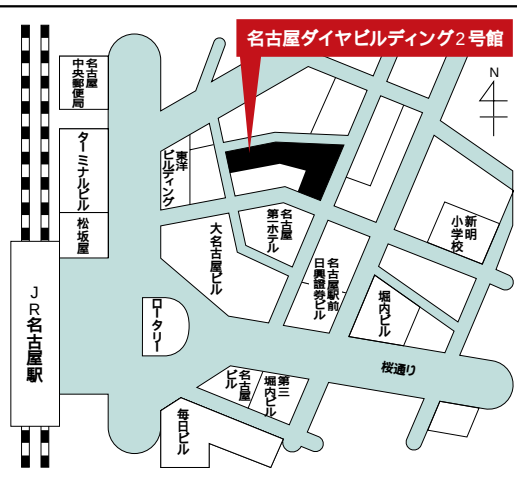
- あて先 / 〒460-0001名古屋市中区三の丸二丁目6-1(4月12日以降は、〒450-0002名古屋市中村区名駅三丁目15-1名古屋ダイヤビルディング2号館) 財)2005年日本国際博覧会協会「EXPO2005クイズ」係
- 締め切り / 平成11年4月30日(必着)
- 抽選で10人の方に記念品を贈呈します(発表は、記念品の発送をもってかえさせていただきます)

名古屋事務所移転のお知らせ

博覧会協会名古屋事務所が、次のとおり移転します。新事務所の開設日は4月12日です。

移転先

〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1
名古屋ダイヤビルディング2号館
TEL 052-569-2005
FAX 052-569-2100



博覧会協会が現在使用しているこのマークは、誘致の際に制作されたものです。



発行 財団法人2005年日本国際博覧会協会 発行日 1999年(平成11年)3月10日 編集責任者 大橋忠夫 部数120,000部

〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目6-1 三の丸庁舎7階 TEL 052-950-2005 FAX 052-950-2100
〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1-1 飯野ビル7階 TEL 03-5521-1601 FAX 03-5521-1607
インターネット・ホームページアドレス <http://www.expo2005.or.jp>
「EXPOの耳」Eメールアドレス voicebox@expo2005.or.jp

「EXPOの耳」あて先
ご意見をお待ちしております。